

UNSAFE IN THE CITY



調査要旨

オンラインを活用した画期的な調査の過程で、数千人規模の女の子や若い女性から、自分たちが受けた嫌がらせや暴力について話を聞くことができました。この調査は、これまで見過ごされてきた女の子たちの都市での体験と、そのような体験が、どう彼女たちの生活に影響したかを始めて明らかにしました。

私たちにとって、この調査結果に何一つ新しいことはありません。もっとも大切な発見は私たちではなく、世界が、私たちの安全についての不安を知ることです。男性たちは私たちを侮辱し、私たちを触り、彼らがしたいことをします。この調査によって、ついにそうした危険のある場所が明らかになりました。

調査ワークショップに参加した 21 歳の女性
マドリッド在住

女の子と若い女性が日々経験していること

思春期の女の子や若い女性の権利を守り、ニーズに応えることは、プラン・インターナショナルの活動の中心です。この調査の目的は女の子や若い女性が、都市で行動しているときに実際に経験していることを明らかにすることでした。彼女たちがどのくらい安全だと感じているか、日常生活において、どのように、どこで、いつ、暴力の恐怖を感じるか、嫌がらせが発生しているのか？女の子の行動が制限され脅かされると、何が彼女たちの将来に影響するのか？

この調査の対象となった都市は、独自の言語と文化、そして地理をもち、それぞれがユニークな特徴を持っています。しかし、そうした世界の都市は、女の子や女性が、男の子や男性が当然のように過ごしている公共の場を利用する際に障壁に直面しています。若い女性が恐怖を感じずに暮らしている都市はどこにもありませんでした。

調査結果

- ・都市は女の子や若い女性にとって安全な場所ではありません。道路、公共交通機関、ほぼすべての公共の場において、彼女たちは、ただ女性であるというだけで、頻繁に不快な思いや不安、怯えを感じています。
- ・多くの女の子や若い女性が不安な気持ちになっている原因は、男性の行動にあります。問題は単に安全性の低さ、街灯の少なさといったことのせいではないのです。

- ・電車やバスといった公共交通機関が集まる中心街は、痴漢やハラスメントが頻発する場所です。中心街にあるよく知られた待ち合わせ場所や、人が混み合っている場所は、男性が気づかれずに素早く移動できるからです。

- ・調査対象となった5つの都市では、痴漢、声かけ、虐待は共通して起こっています。女の子たちはそんな現状を「普通」のこととして捉えています。女の子や若い女性は昼夜問わず、常に嫌がらせを受けているのです。

- ・ほとんどの場合、目撃者はただ見ているだけか、あるいはほとんど何もせず助けてくれません。女の子たちはハラスメントを報告できる機関がほとんどないと感じています。なぜなら、そうした機関は女の子が受けた嫌がらせに、何らかの対処をする意思も力もないと知っているからです。

- ・都市行政、あるいは広くは社会が無関心で何もしないことで、多くの女の子や若い女性は虐待や嫌がらせを受けるのは自分のせいだと責めることになります。

- ・女の子や若い女性は、身の安全を守るために自らの振る舞いを変えさせられています。こうした状況は、彼女たちの自由、機会そして平等を制限しています。多くの女の子は自分自身で、特定の場所には近づかないようにしています。ある女の子は学校を中途退学し、またある女の子は仕事を辞めています。都市で安全に生活できないことが明白だからです。

安全なまちづくりに向けた提言



男性や男子の行動を変えよう



意思決定の場へ女の子の参加を高めよう



セクシュアル・ハラスメントに対する法律や政策を強化しよう

男性や男子は、性差別的な行動は許されないことを認識し、対等な関係として女の子や女性を尊重することを学ぶ必要があります。

男子や若い男性は変革者となるべくエンパワーされ、男性社会の慣習に立ち向かう必要があります。

一対一で、また家族の中で、あるいは学校や職場において、すべての人が女の子や女性の体験に耳を傾け、対話を始める必要があります。

女の子や若い女性が報復の恐怖を感じることなく、都市における性差別について議論できる公共の場が必要です。

すべての市行政、民間企業、支援者や市民社会はハラスメントや虐待をなくすための活動において、それぞれの役割を果たすことができます。

すべての人、とくに政治家、著名人、企業、また指導的な立場にある人たちは、女の子や若い女性とともに、推進者になることができます。

市長、市行政の管理職、計画策定者は、女の子や若い女性とともに活動し、彼女らの声に耳を傾け、情報収集に努めなければなりません。

市行政機関は、虐待の程度を数値化するためにデータ収集を優先づける必要があります。

女の子は都市のインフラやサービス、政策を含めた都市設計や計画づくりに参加すべきです。

企業や市行政、また交通局は、女の子に優しい安全な空間をつくることで、困難な状況にある女の子を支援すべきです。

政府はすべてのジェンダーに基づく暴力を禁じる法律や政策を採択し、実行に移さなければなりません。

より適切な訓練を受けたセキュリティの人材を投入したり、酒類の販売許可制度を見直したりすることにより、飲酒やドラッグ摂取による虐待の発生が助長されている地域の改善に乗り出すべきです。

女の子のニーズに応え、虐待の加害者に速やかに対応するために有効な通報システムを構築することに加え、警察官、公共交通機関の従業員、警備会社の警備員や行政職員といった都市部での女の子の安全に関して最前線で働く人々をトレーニングしなければなりません。

「私がこうあって欲しいと思いつく都市では、ジェンダー平等が達成されています。しかし、現実の都市は不平等が蔓延しています」

ワークショップに参加したカンパラに暮らす若い女性

調査について

この調査データは、モナッシュ大学にある XYX Lab と Crowdspot 社とのパートナーシップにより制作された **Free to Be** という地図をベースとしたオンライン社会調査ツールを利用して、デリー（インド）、カンパラ（ウガンダ）、リマ（ペルー）、マドリード（スペイン）とシドニー（オーストラリア）から集められました。この調査は女の子や若い女性とともに設計され、それぞれの都市で彼女たちが安全だと思うところ、また危険だと思うところを特定できるようにしました。彼女たちは、女の子が自由に楽しめる場所に 'Good' というピンを置き、不安で不快な場所に 'Bad' というピンを置きました。それぞれピンが置かれた場所には、彼女たちが判断した理由を書いてもらいました。それぞれの都市では、調査結果を検証するために、振り返りのためのワークショップが開催されました。

